2026 年８月

東武鉄道株式会社

2027 年３月期　第１四半期 決算補足説明 主な質疑応答

※本内容は、書き起こしではなく、説明会での質疑応答の内容を弊社にて簡潔にまとめたものです。あらかじめご了承ください。

Q．訪日の中国人観光客が減少しているが、ホテルや東京スカイツリーにどのような影響が出ているか。

A．ホテル、スカイツリーとも、中国人観光客の減少は見られるものの、米国やその他アジア地域からのお客様の取込みにより十分補完できており、現時点で大きなマイナスの影響は生じていない。

Q．東京スカイツリーの変動価格制は、第１四半期でどのような効果があったのか。

A．第１四半期決算では、入場者数は、台風など悪天候の影響を受け、前年同期比で18 万人減少したのに対し、減収幅はそこまで大きくなく、変動価格制導入の効果は一定程度あったものと考えている。

Q．東京スカイツリーの変動価格制に関し、さらなる単価向上余地はあるのか。

A．変動価格制に関しては、現時点で一定の効果が確認できている。４月に導入したばかりであるので、その効果等を見極めながら、引き続き価格設定については、研究・検討していく。

Q．旅行業は、計画比で営業減益となっているが、第２四半期以降さらに悪化するリスクはあるのか。

A．資料上、若干マイナスに見えるが、概ね計画通りに推移している。

Q．不動産賃貸業の計画比増収増益になった要因は。

A．駅ビル等の売上増加に伴う賃貸収入が上振れたことに加え、広告収入も好調である。このほか、一部、第２四半期以降で見込んでいた物件売却の前倒しなどもあり、計画比で増収増益となっている。

Q．流通その他業は、新東武カード発行費用の反動などで増益を見込んでいたと思うが、計画比で減収減益になっている理由は。また、通期では計画達成可能と見てよいか。

A．新東武カード発行に係る収支は概ね計画どおり推移している。
一方、流通その他業における第１四半期決算は、グループ会社におけるサステナビリティ関係設備の販売が第２四半期以降に繰延になったこと等により、計画比で減収減益となっているが、年間では、当初計画達成可能と考えている。

Q．ホテル、鉄道、東京スカイツリーの足元の状況と今後の見通しを教えてほしい。

A．鉄道、ホテルについては、７月も引続き好調に推移している。
東京スカイツリーも、７月以降は変動価格制の効果等により、収入は順調に推移している。

Q．業績が上振れとなった場合、配当性向を含めた株主還元についてどのように考えているか。

A．現時点では通期計画を据え置いているが、第２四半期以降の業績のほか、今後のキャッシュフローの状況や財務健全性なども踏まえながら、株主還元についてもあわせて検討していく考えである。

Q．本年５月の決算説明会資料に記載のあった沿線外資産縮減について具体的な進捗はあるか。

A．現時点では入替対象資産など具体的な案件は決定していない。グループとのシナジー効果や利回り、周辺開発状況などを総合的に勘案しながら今後検討していく。

Q．沿線外資産縮減に関する開示のタイミングは、いつ頃になるのか

A．現時点では検討中であり、いつ具体的な物件を公表できるかは未定である。ただし、中期経営計画期間である今後２年間の中では実施する方向で進めている。

以上